

主 題：教会の建て方10

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章16節

完全な完璧な教会、皆さんはどのような教会を想像されますか？そのすべてにおいて神に喜ばれる完全な教会とはどのような教会でしょう？今、ここで皆さんにアンケート調査をして「完全な教会はこのようなものです」と書いていただくなれば、多くの違った回答が出て来るかもしれません。実際に人々が、完全な教会がどのようなものかを考えるとき、様々な概念、見解をもって答えを出そうとするでしょう。けれども、神が求める完璧な教会とはどのような教会でしょう？私たちが今見ているこのエペソ人への手紙の中で、パウロはその答えを出しているとは私は考えます。

パウロはこの手紙の前半部分において、教会に属する人たちはどのような人たちで、彼らはどのようにこのキリストのからだである教会に加えられたのかということについて説明しました。それは1-3章に記されています。そして、その後パウロは、そのように教会に加えられ、神の民とされた贖われた人たちがどのように神の前に生きて行くべきなのかを教えています。それが4-6章に記されています。私たちはその中でも、4章1節から始まった、救われた者たちがどのように生きて行くべきなのかを、パウロが具体的に教え始めた第一番目のところで、特に、教会に関して記されている11節からの部分を詳しく見て来ました。これまでに11-15節の箇所を見ながら、神が私たちのために備えてくださった教会の設計図を見て来ました。そこで、キリストご自身が賜物をもった者たちを教会に備えてくださったことを見ました(11節)。そして、その人たちを教会に与えることを通して、彼らがみことばを教えることによって、教会に属するクリスチャンたち、聖徒一人ひとりが整えられて奉仕の働きをし、キリストのからだを建て上げることができるようになったことを12節で見ました。この神の計画は、教会がキリストに似た姿を完全に持つようになるまで継続するものであることを13節で見ました。そこには私たちの信仰の一致と、そして、御子イエス・キリストに関する知識の一致に達することが記されていました。神が立ててくださった設計図に沿って私たちが教会を建て上げて行くときに、そこには必ず起こってくる結果があるということを見ました。

《教会の建て方》

IV. キリストは予期すべき結果を明確にして彼らを教会に与えた

神の設計図に沿って建てられた教会に必ず起こる結果です。

A. すべての信徒は成長を遂げる 14節

幼子のままで居続けることがないのです。

B. すべての信徒はキリストに向かって成長する 15節

これらの事柄は個人個人のクリスチャンに起こることでした。同時にパウロは、個人にもたらされる結果だけでなく、教会全体にもたらされる結果があることを教えました。

C. すべての信徒は一つとなって成長する 16節

教会は一致をもって成長して行くということです。そのことを私たちは先週から見始めました。教会が一致をもって成長して行くために、

1. 成長はかしらにつながることによってもたらされる

その教会に属する一人ひとりのクリスチャンが、確かに、かしらであるキリストにつながっていないといけないということを見ました。

2. 成長はからだにつながることによってもたらされる

そして、一人ひとりがキリストのからだにつながっていないといけないということも見ました。

今朝、私たちは16節の残りの部分を見て行きます。そして、パウロがここで言わんとしている、キリストの与えてくださった設計図に沿って教会を建て上げて行くときに必ず起こる三番目と四番目の結果を見終わりたいと思います。それだけでなく、今日は最後の部分で少しだけ、4章の1節からパウロが私たちに伝えようとして来たことを、もう少し大きな文脈の中で、「教会を建てる」ということがどういふことなのかを確認し直したいと思います。これらの事柄は私たちクリスチャンにとって非常に重要なことです。なぜなら、パウロはここで、救われた私たちがどのように生きなければいけないのかを明確に表わそうとしているからです。この教会がどのような教会なのか、この教会は神の計画に沿って建てられているのかどうか、この教会が「完全な教会」と比較したときに、どんな教会になっているのか、これらことを皆さんといっしょに今一度真剣に考え、そのような教会を目指して進んで行くことができればと心から願います。いつものようにみことばを読みましょう。エペソ4：11-16

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。:14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。:16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

先週、皆さんと分かち合ったように、この16節は11節から始まる箇所の中で訳すことが最も困難な節だろうと思います。なぜなら、パウロはこの1節に多くの事柄を詰め込もうとしているからです。それゆえに、パウロが語っていることをはっきり理解するために、この部分をバラバラにして、一つ一つのことを明解に理解しなければいけません。16節を四つの部分に分けました。

《教会の建て方》 → IV. キリストは予期すべき結果を明確にして彼らを教会に与えた

→ C. すべての信徒は一つとなって成長する 16節

1. 成長はかしらにつながることによってもたらされる

最初の部分は「キリストによって」という箇所、教会としての成長は、私たちが「かしら」であるキリストにつながっているときにのみ起こるということでした。私たちクリスチャンはかしらであるキリストにつながっていなければいけなかったのです。ちょうど、私たちの脳がからだに対して指示を出しからだを支配しているのと同じように、かしらであるキリストは教会を支配し、教会に対する指示を与えているのです。キリストこそが私たちの成長の源であり、キリストに正しくつながっていることがなければ、そこには明らかに成長はあり得なかったのです。

2. 成長はからだにつながっていることによってもたらされる

これはこの16節の根幹的な部分で、動詞と主語を含むものでした。そこで、私たちはこの箇所が最も伝えようとしていることは、直訳して「からだ全体はからだの成長をもたらず」と見ました。ここでパウロが言わんとしているのは、教会として成長して行くためには、単に、私たち一人ひとりがかしらであるキリストにつながっているだけでなく、からだである教会とつながっていなければいけないということです。教会につながっているときにのみ成長が起こるのです。パウロがここで使っている表現を見ると、彼がはっきり言っていることは、クリスチャンの成長は個人個人の成長というよりも、からだ全体の成長であるということです。これはキリストが私たちに「成長」ということばを与えて成長を考えるとときに概念としておられるものです。

ちょうど、からだの一部分だけが大きくなってもそれがからだ全体の健康を示すわけではないのと同じように、教会というキリストのからだにあって、個々が成長すること以上に、教会全体が神の前に成長して行くことを、パウロは教えたのです。からだは全体として成長して行かなければいけないのです。そして、神はクリスチャンがからだとは別のところで、一人で信仰生活を実践し成長して行くことを考えてはいないということを、私たちは忘れてはいけません。ちょうどそれは、切り取られてしまった腕がそれだけで成長して行くことがないのと同じように、私たちはからだにつながっていなければ成長することはないのです。

そして、今日私たちが見る三番目のポイントです。「すべての信徒たちは一つとなって成長する」ということの三番目です。

3. 成長は各器官が役割を果たすことによってもたらされる

この三番目は、非常に複雑な文章が折り重なっているこの部分の複雑さをもたらししているところです。先週、私はこの部分に少しだけ触れました。16節を訳すことを困難にしている大きな理由は、パウロがこの節の主文である「からだ全体はからだの成長をもたらず」ということばにたくさんのことばを加えて説明していることです。多くのフレーズが出て来るのです。余りにも、この文章が複雑であるゆえに、古代の注解者たちはここにこのような突飛な注釈を付けています。「この節は、パウロがまるで瞬間的記憶喪失に陥ったかのようだ。パウロは直前に何を書いたのかを憶えていないかのよう、同じことを重ねて話をする。」と。確かに、パウロは同じようなことを私たちに何度も重ねて伝えようとしています。このことがこの節を難しくしている大きな理由ですが、なぜ、このように同じことを繰り返すのかというと、パウロはこれまで「からだ」ということばを用いて教会の姿を表わそうとしました。私たちが理解し易いように、「からだ」という比喩を使って教会がどのようなものを表わそうとしたのです。

ところが、多くの比喩がそうであるように、真理すべてを比喩によって表現することはできません。どこかで限界が来てしまいます。パウロはもっと深いことを伝えたかった、もっと明確にしたいことが

あったのです。それで、聖書の他の箇所がいろいろなところで教会に対して様々な比喻を使うのと同じように、パウロはここで別の比喻を重ね合わせるのです。平面的な絵を立体的にするためには多くの色をそこに重ね合わせて行きます。同じように、パウロは「からだ」というたとえだけでは伝え切れない部分を、別のたとえをそこに組み入れることによって、私たちにより深く明解に伝えようとしているのです。いったい、パウロは何を伝えなかったのでしょうか？パウロが私たちに描かせようとしたより明解な教会の姿とはどのようなものでしょう？それは、一つ一つのからだの部分がからだの成長に役立つときにのみ成長が起こる、一つ一つの部分が自分に与えられている役割を果たして行くときにのみ教会の成長が起こるということです。複雑なことばが絡み合うこの節で、三番目の部分は四つのフレーズで構成されています。一つ一つを見て行きましょう。

日本語の新改訳聖書の順番とは違って、実は、この文章の主語である「からだ全体」ということばのすぐ後に出てくるのは、二つの分詞です。二つの動詞の特定の形である分詞がここで使われるのですが、これらは「からだ全体」ということばを説明しています。

1) 組み合わせられ

このことばは非常に興味深いことばで、新約聖書には2回しか登場しないのです。この箇所ともう一箇所もエペソ書で、エペソ2:19-21に記されています。ここでのこのことばの使われ方は、16節でパウロが言わんとしていることの意味をより明解にさせます。「:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。:21 この方にあつて、組み合わせられた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、:22 このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」と、パウロはここで同じことばを使っています。そして、ここで出て来るこのことばの意味と同じ意味で16節でも使われているのです。

この「組み合わせられる」ということばは建築に関して用いられます。皆さんも想像できると思いますが、ギリシャの大きな建物、特に、神殿などの重要な建物は基本的に石でできています。多くの石が組み合わせられて建て上げられて行くのです。今では私たちはセメントなどを使いますが、この当時、一般的に建物を石で建てるときはモルタルを使って石を組み合わせるのではありませんが、重要な建物についてはモルタルを使いません。一つ一つの石を組み合わせる石の上下左右を同じ寸法に正確に切り出して、それらを一一つ重ね合わせていきました。それがこのことばの背景にある姿です。一つの大きな石、日本ではお城の大きな石垣などを想像してください。それらは切り出したときは一つ一つ違った形をしています。ですから、ピッタリと合いません。けれども、当時の人々はこのような重要な建物を建て上げて行くときに、合わない部分にモルタルを入れて重ね合わせるのではなく、一つ一つの石をきれいに削って、隣の石と正確に合うように組み合わせるのではありません。パウロはこれが教会だと言うのです。ちょうど、大きな石の一辺をきれいに削り取って他の石と違和感がないように、隙間がないように重ね合わせるのと同じように、私たちクリスチャン一人ひとり神の手によって、触れ合うクリスチャン一人ひとりと隙間のないように組み合わせられる、それがパウロがここで私たちに伝えようとしていることです。

2) 結び合わされ

それだけではありません。もう一つのことばが「からだ全体」ということばの説明として加えられています。それは「結び合わされる」と訳されていることばです。このことばも興味深いことばです。新約聖書には7回使われています。このことばは三つの形で訳されます。一番根幹にある意味は、(a) 合体させる、結び付ける、組み立てる、です。そこから発展して、(b) 私たち自身が様々な事柄を頭の中で考えて、それら一つ一つを組み合わせる結論に到達するという意味が出て来ます。実際に、ものを組み立てるだけでなく、私たちがいろいろな事柄を頭の中で組み立てて理解する、結論を出すという意味でこのことばが使われます。さらに発展して、(c) 単に私たち一人の中でそれが起こるのではなく、周りの人々みなの中でそれが起こるのです。共通の理解をもつ、同じ結論に到達して一致する、そのような意味が生まれて来ました。パウロはこのようなことばをここで使うのです。ロイド・ジョーンズは「このことばがここに付け加えられていることをもって、パウロは私たちが単にいっしょにいるだけでなく、そこにあつて霊的な結合、深い絆が生まれているということを言い表そうとしている。」と言っています。まさに、その通りだと思います。

パウロはここで私たちに、教会とは単に私たちが集まって来る場所だと言うだけでなく、その集まりの中には、私たちの間に深い結び付き、霊的、精神的に心からの結合が起こっていて、それゆえに、そこには一致がある、共通の見解のゆえに、同じ絆をもって建て上げられているということを伝えようとしているのです。皆さんが教会を見る時、私たちは神のすばらしいみわざを見なければいけません。それが現われていなければいけないのです。現われているはずですから、よく考えてみてください。神は単に

私たち贖われたクリスチャンたちを世界の基が置かれる前に選んだだけでなく、私たちを召してくださいただけではなく、神のすばらしいみわざによって私たちを救ってくださっただけでなく、神は私たちをこの教会に集めてくださり、私たちをこの教会の一員にふさわしい者としてデザインしてくださり、組み合わせてください、そして、ここに一人ひとりと深いきずなをもって結び合うことができるようにしてくださいなのです。皆さんが今日、この教会にいて、皆さんがこの教会に通いつけていることは偶然ではありません。何かの事故でそのことが起こったのでもありません。神の計画によってそれが起こっているのです。なぜ皆さんはここにいますか？それは、皆さんはこの浜寺聖書教会に必要なからだの一部だからです。皆さんがここにいて、皆さんが神によって不必要な部分、でこぼこしている部分を削り取られて、周りにいるクリスチャン一人ひとりとピタッと一致することができるようにされているからであり、皆さんが周りのクリスチャンたちとの心からの結合、絆を持つようにと神がしてくださいだからなのです。

3) 備えられたあらゆる結び目によって

3番目は、どのようにこの結合や組み合わせ、結び合わせが保たれているのかということに関して言及しているものです。新改訳聖書は、この部分を「備えられたあらゆる結び目によって」と訳しています。この箇所は非常に多くの事柄が凝縮されていて、たくさんをここで伝えることができますが、時間がないので一つだけに焦点を当てたいと思います。それは「備えられる」と訳されていることばです。このことばは「だれかを助けるために必要なものを用意する」とか、「だれかの必要に応える、必要を備える」という意味の動詞から派生したことばです。このことばは古代のギリシャ語文献の中であって、このような時に使われることばです。ギリシャ人たちは劇を見るのが好きでした。町々でいろいろな劇が行われたわけです。人々の娯楽はそのような劇を観賞することでもありました。その劇をする時には多くの費用がかかり多くの準備が必要でした。合唱団がそこに立ち、多くの役者たちがいて、様々な舞台装置があり舞台に必要な道具がそこにあったわけです。多くの必要があり、多くのお金がかかりました。当時の社会では、多くの場合パトロンがいて、その必要な費用を全部備えたのです。出資者がいて、その人物がその芝居全体をサポートし必要を備えたのです。それがここで使われていることばの背景にある意味です。

残念ながら、新改訳聖書はこのことばを「備えられたあらゆる結び目」と受動態で訳しています。本来はここは能動態で訳すべきだろうと思います。つまり、「あらゆる結び目が備えるもの」です。何のことを言っているのか？先ほど話したように、パウロは、教会に「かしらにつながり、からだの一つ一つの部分につながっている人たち」を集めたと言いました。それらは「結び合わされて、組み合わせられている」のです。それぞれが結合されているわけです。それらのつながり一つ一つに備えているものがあると言うのです。それらの一つ一つに周りにある必要を満たすための役割が与えられていて、それらが何かを提供していると言うのです。からだにつながっている一人ひとりのクリスチャンが「からだ」のために何かを為していると言うのです。どのようにしてその結合が保たれているのでしょうか？それは一つ一つの部分に備えているものがあると言うのです。

4) 一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により

何を備えているのか？それがパウロが重ね合わせる説明のことばの4番目、最後の部分です。新改訳聖書は「一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により」と訳しています。クリスチャンはいったい何を備えているのでしょうか？一人ひとりのからだの部分はからだに対して何を備えているのでしょうか？パウロは「働く力」があると言います。一人ひとりの一つ一つの部分に備えられている働きです。ここで、もう一つのことばに注目したいと思います。それは「その力量にふさわしく」と訳されている部分です。実は、パウロはこのことばを4：7で使っています。4：7を見ると「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」と書かれています。この「量りに従って」と「力量にふさわしく」ということばは同じ単語が使われています。パウロはこの16節で7節を思い浮かべながらこのことばを語ったのでしょうか。なぜなら、パウロがここで言っていることは、神が一人ひとりのクリスチャンに与えられた賜物、その量りに沿って働きを為して行くということだからです。

もう一度整理すると、パウロが言っていることは、私たちクリスチャンはかしらにつながっているだけでなく、からだの一つ一つの部分につながっていて、からだ全体に属する者だということです。そして、属しているからだにどのように属しているのか？それは周りとの一致を保つことができるように、その間にまったく隙間のないような形で神がデザインして、神が切り抜いて、私たち一つ一つを合わせてくださり、その結合は単に沿い合っているというだけではなく、そこには深い絆があるということです。その絆は一つ一つの部分がそれぞれに何かを為すことによって、備えている何かによって、しっかりと保たれていると言うのです。何が働いて保たれているか？それは「一人ひとりに与えられている賜物によって」なのです。

パウロはこのことに関して、今は見ませんが、コリント人への手紙第一12章で長々と説明しています。皆さんご存じでしょう。キリストのからだには多くの部分が存在します。私たちの肉体に多くの部分があるように、それぞれには違った役割があります。ある部分は「見ること」をし、ある部分は「聞くこと」をし、ある部分は「しゃべること」をし、ある部分は「消化すること」をし、ある部分は私たちの「からだに血液を運び」、ある部分は私たちが「物をつかむ」ために必要で、ある部分は私たちが「歩く」ために必要です。同じように、キリストのからだには様々な部分が存在します。でも、不必要な部分、役に立たない部分はないのです。すべての部分がそれぞれにあるその働きを全うすることによって初めて健康なからだが生まれるのと同じように、キリストのからだにある一つ一つの部分は、どれ一つ取っても不必要なものがなく、有益なものでしかないのです。それらすべてが機能しなければ、からだ全体が健康に保たれ、からだ全体が成長することはないのです。確かに、パウロが言うように、「キリストの賜物の量りに従って」賜物は与えられています。神がだれにどのような賜物をどれ位与えるのかを決めておられるのです。パウロは、あなたたちに何とかそれ以上の働きをなさいと言っているのではありません。あなたに与えられているその働きをあなたは十分に全うしなければいけないということです。私たちがその働きを全うして行く時に初めて、私たちのからだは成長して行きます。私たち、部分一つ一つが、神によって与えられたすばらしい力を周りにつながつているクリスチャンのために備えて行く時に、そこには成長が起こるのです。これが教会です。

ひょっとすると、皆さんはある部分の方が重要だと思いかもしれません。教会の中には非常に目立つ働きをする方がいます。同時に、教会の中にはだれも見えていないところで熱心に働かれる方がたくさんいます。教会の中には重要だと思われる働きをしている方もいます。だれでもできる働きであっても熱心に行っている方がたくさんおられるかもしれません。でも、皆さん、重要であろうと重要でなかりょうと、一つ一つのからだの部分が正しく働かなければそこには健康なからだは存在しないのです。どの部分も必要なのです。そこに優劣はないのです。すべての部分が機能していなければいけないのです。宗教改革者であるジョン・カルヴィンはこのようなことを記しました。「もし、私たちがキリストのからだの一員であると思いたいならば、だれひとりとして、自分自身のために生きるのではなく、他の人たちの成長のためにその益のために生きなければいけない。すべてのことをしなければならぬ。」と。キリストのからだの一員であると思いたいならば、自分自身のことを考えて生きるのではなく、周りの人の益のために、徳を高めるために生きなければいけない、すべてのことをしなければいけないと言います。

<まとめ> 教会成長の秘訣

皆さん、教会成長の秘密はここにあります。教会が成長して行くための秘訣はここにあります。いったい、教会はどのようにして成長して行くのでしょうか？教会の成長は、教会に属する一人ひとりのクリスチャンがかしらであるキリストに確かにつながり、キリストの指示に従って生きようとし、一人ひとりのクリスチャンが教会の他の部分と確かにつながり、その教会の中での役割を、自らに与えられている賜物を生かして生きて行く時にのみ起こるのです。自分の賜物を用いてお互いに成長して行こうと願い、それを実践して行くことによってのみ初めて起こるのです。これが神が教会を成長させようとする方法です。そして、これこそが、私たちが神の計画に沿って教会を建てようと思うときに確かに見なければいけない結果なのです。

皆さんが今朝こうして教会に来られてメッセージを聞いておられるなら、皆さんは教会のために神のみわざを為して行こうという思いに駆られて、働きに熱心に従事していなければいけないはず。なぜなら、それが神の計画だからです。もし、皆さんが教会にいて、毎週日曜日にここに来て、1時間半心地よくここで座って話を聞いていればそれで私は教会に属していると思うなら、皆さんは大きな誤解をしています。それでは皆さんは教会に属していません。教会に属している人というのは、キリストのからだの一員であるがゆえに、その一員としての機能を果たそうとする者でなければおかしいのです。皆さん一人一人はかしらであるキリストに本当につながっていて、本当にこの教会につながっているとすれば、皆さん一人一人はこの教会になくてはならない大切な部分なのです。皆さん一人一人に与えられているすばらしい賜物を皆さんが神の恵みによって用いていなければ、この教会は不健康なのです。皆さんが単に日曜日にここにやって来て「私はメッセージを聞いて賛美をし、いっしょに祈っていればそれで十分です」と言っているなら、皆さんは実は教会にとって害をもたらしているのかもしれない。私たちのからだの部分が機能していなかったら病気になりませんか？不健康ではありませんか？同じように、もし皆さんが教会の一員でありながら、その働きを神が与えてくださっている賜物を用いて果たしていないとするならば、皆さんはもしかすると教会に害をもたらしているのかもしれない。教会の成長を妨げているのかもしれないのです。

パウロは、からだのありとあらゆる部分は、からだの成長のために働いていなければいけないと言っています。教会が成長するためには、からだの一つ一つの部分がその役割を全うしなければいけないと。

私たちはこのことを無視してはいけません。軽く考えてはいけません。

4. 成長は愛のうちに一致を保つときにもたらされる

16節は全部で4つの区分があると言いました。一番目は「私たちがからだ全体として、教会として成長するためにはキリストにつながっていなければいけない」ということでした。二番目は「教会につながっていなければいけない」ということでした。三番目は今見たように、「一つ一つの部分がその役割を果たさなければいけない」ということでした。四番目、最後の部分ですが、パウロが私たちに教えることは、私たちが教会として成長して行くためには「私たちが愛のうちに互いに建て上げ合わなければいけない」ということです。

パウロは再び「からだのたとえ」を離れて「建物」に戻ります。16節の最後のところで「成長して、愛のうちに建てられるのです。」ということばを使います。実は、このことばもこの文脈の中ですでに使っています。12節にこのことばが出て来ます。これは多分このセクションの中で最も重要なことばかもしれません。12節でパウロは「キリストのからだを建て上げるためであり」と記しています。これはキリストが教会に賜物を持った人たちを与えた目的でした。私たちがそこへと向かって行くその方向でした。そして、パウロはもう一度この同じ「建て上げる」ということばを使って、私たちにその目的を思い起こさせようとしているのです。からだ全体がからだの成長をもたらすに当たって、私たちが目指しているところは何か？それは、私たちのからだは建て上げられて行くこと、この教会が建て上げられて、キリストに似た者へと、完成へと近づいて行くことです。

この表現を使うことによってパウロは私たちに一つのことを明確にします。それは私たちの教会が完全ではないということです。だから、建て上げられなければいけないのです。まだ完成していないのです。まだ建築途中なのです。いつの日かそれが完成するその日まで、私たちはこの教会を建て上げ続けなければいけないのです。私たちは神の計画に沿ってこの教会を建て上げて行く責任があるのです。

このことは、パウロがすでに語って来たことです。このことを私たちは何度もくどいほど繰り返し考えて来たわけです。キリストがかしらであって、そのからだにみことばを通して指令を与えているのです。その指令をだれが伝えるのか？神は備えてくださった賜物を持った人たちを教会に与えたのです。使徒たち、預言者たち、伝道者たち、牧師・教師と呼ばれる者たちがその働きを担って、からだ全体に向かって、かしらであるキリストが語っていることを伝えるのです。それをもって、からだ全体である聖徒たちは教えられ、励まされ、その働きを全うしようと奉仕の働きに励み、からだ全体が整えられて成長して行くのです。なぜなら、クリスチャン一人ひとりが賜物を用いて役割を果たして行くからです。そして、それが繰り返されて行く時に、いつの日か私たちは「信仰の一致と神の御子に関する知識の一致」とをもって、キリストの身たけにまで完全に成熟して行くのです。

パウロはこれまでに語って来たこの「建て上げる」という概念に、一つだけ加えるのです。これがなければ私たちは建て上がらないというものです。パウロは「愛のうちに建てられる」と言います。からだ全体はからだの成長をもたらすのです。それは、一つ一つの部分がそれぞれの役割を全うして行く時に初めて起こるのですが、でも、この神の計画が達成されるためには一つの重要な条件があったのです。一つの事柄が必ずそこになければいけないのです。それが「愛」です。「愛」という領域のうちに建てられなければいけないと言うのです。「愛」という場所の中で建てられなければいけないと、パウロはそのことを私たちに強調して教えます。

あるひとりの説教者はこのことに関してこのように言いました。「私たちのからだの一つ一つの部分が正しく機能して行くために、成長するための機能をもって行くためには血液が必要だ。」と。からだの様々な部分に必要な要素を送り、酸素を届けるその血液がなければ、どれだけ機能が十分であったとしても、からだの成長に役立つ働きをして行けません。同じように、教会が成長して行くためには『愛』という血液が教会というからだの中にしっかりと行き巡っていなければいけないと言うのです。その通りだと思います。皆さん、憶えておられますか？先ほど言ったように、「コリント人への手紙」を見て行くと、コリントの教会には手紙の中で書かれている賜物のリストがあるのですが、そこにはほとんどすべての賜物がありました。みな熱心にそれを使っていました。ひとり一人のクリスチャンが自分の賜物を用いたいと願って一生懸命用いていたのです。ところが、その教会に向かってパウロは「あなたたちほど幼稚なクリスチャンは見たことがない」、「これほど幼稚な教会はない」と言うのです。なぜでしょう？みながりっぱな賜物を持っていたのではないですか？それぞれが熱心に教会の中で自分の賜物を用いようとしていたのではないですか？パウロはコリント人への手紙第一13章で、たとえ、私たちがどれほど素晴らしい働きをしていたとしても、どれほど偉大な信仰を持っていたとしても、どれだけ素晴らしいメッセージを語ったとしても、愛がなければいっさいは無益なものだと言いました。13:1-3「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。:2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、

山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。:3 また、たとえ私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」、愛がなければ、どれほどすばらしい賜物をどれほどすばらしく用いたとしても、それは教会の成長にはつながらないのです。コリントの教会が幼かったのはまさにこのことが理由でした。彼らには愛がなかったのです。彼らは自分たちのことだけを考え、自分たちの願望だけを満たそうと教会の中で働きをしていたのです。彼らは自分の利益のために教会にやって来ていたのです。彼らは自分たちの目標を達成するために教会に来て、自分たち自身のために信仰生活を送っていたのです。Iコリント3：1-3「さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。:2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。:3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているのではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるのではありませんか。」。

残念なことに、現代の個人主義の社会において、多くのキリスト教会の中にもこのような思いを持って教会に集う人たちがたくさんいます。人々は教会から何を得ることができるのかという質問を持って教会にやって来るのです。私は今日、いったい何を得ることができるのでしょうか？どんな良いことを教会で得ることができるのでしょうか？と、もし、皆さんがそのような質問を持って、そんなことを願って教会に集われるなら、どうぞ教会の玄関に入る前にその思いを全部捨ててください。教会に来る時に皆さんが願うことは、「私は何を得ることができるだろう？」ではなくて、「私は神のために、私の周りにいる愛する兄弟姉妹のために何をすることができるだろう？何を与えることができるだろうか？」というそれだけです。私たちは自分のために教会にいるのではないのです。神が私たちをすばらしい計画に基づいて、そのデザインに基づいて、ごつごつした部分を削り取ってくださって、周りのクリスチャンとピタッと合うようにしてくださったのは、私たち自身のためではなく、周りのクリスチャンがともに成長して行くためなのです。もし、私たちがそのことを私たちの頭の一番先頭にもってこの教会に入ってくるのがないならば、私たちはこの教会に来て何のすばらしい働きも為していません。パウロは「教会は自分のためにあるのではなくて、周りの兄弟姉妹のために何をするのかというためにある」と言います。他の人たちのために愛のゆえに何ができるのか？それが教会なのです。

☆召しにふさわしい歩みとは？ 4：1～

神に贖われた者として、私たちは神の召しにふさわしい生き方をしなければいけません。それがパウロが4：1で私たちに教えたことでした。「召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」、これがパウロが勧めたことでした。パウロはこの後、4～6章にかけて、この召しにふさわしい歩みとはどのような歩みなのかを具体的に私たちに教えてくれます。

a) 御霊の一致を熱心に保つこと 2-3節

パウロが最初に挙げることは、3節「御霊の一致を熱心に保ちなさい」です。召しにふさわしい歩みとは、「御霊の一致を熱心に保つ」、そのような歩みです。では、どのようにして一致を保つことができるのでしょうか？パウロはそのために私たちが必要な態度を持たなければならないと言いました。それが2節に書かれています。「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い」と、このような態度を持っていなければ一致は生まれれないと言うのです。

『謙遜』：自らを低くして、私は他の人たちに仕える者なのだという思いを持って生活することです。

『柔和』：他の人たちに対して優しく、他の人たちの願望を最初にかなえようとして生きる、そのような生き方です。

『寛容』：怒ることなく、様々な事柄に対して耐え忍ぶことです。

『忍び合う』：他の人たちの間違った行為、間違った態度、間違ったことばに対して、愛の思いと行動をもって接しようとするということです。

これらがクリスチャンに備えられていなければ一致を保つことができないとパウロは言います。それがクリスチャンにふさわしい歩みだ、召された者にふさわしい歩みはこのような態度をもって一致を保つことであると言うのです。

b) 一致をもたらす真理に目を向け続けること 4-6節

二番目にパウロが伝えたことは、一致をもたらす事柄に目を向け続けなければいけないということです。大切な教えに目を向けていなければいけない、それに焦点を当てなければいけないと言うのです。すなわち、正しい教理をもっていることです。

『からだは一つ』：私たちは同じいのちを共有している者です。

『御霊は一つ』：私たちのこのいのちは同じ源を持っているのです。聖霊によって私たちはこのいのちを得たのです。

『望みが一つ』：私たちの未来も同じものです。未来を共有しているのです。希望として抱いているものは私たちみな同じです。

『主は一つ』：私たちは同じ主人を持っています。キリストというかしらを持っています。

『信仰は一つ』：私たちが信じている事柄は同じです。みな同じ福音を信じています。それによって、私たちは信仰を持ち、救われたわけです。

『バプテスマは一つ』：私たちが告白していることも同じです。私たちの主イエス・キリストだけが私たちを救うことができる救い主であり、罪人である私たちはこの方によってのみ永遠のいのちを得ることができる、この方に従って行くということを私たちは同じように告白したのです。

『父なる神は一つ』：私たちは同じ父なる神をもっているのです。

パウロはこれらのすばらしい一致をもたらす真理に目を向けていなければいけないと言うのです。他の様々な分裂をもたらすようくだらない事柄にどうしてあなたたちはいつもいつも集中するのか？と。時に教会は、教会堂の壁の色で分裂します。壁の色なんてどうでもいいのです。時に教会は、どんなジャンルの音楽を教会で賛美として使うのかで分裂します。そんなことはどうでもいいのです。音楽のジャンルなんて問題ではないのです。どの楽器を使っても問題ないのです。何が問題か？大切な真理が問題なのです。一致をもたらす真理に目を向けて、私たちは自分たちの考えや自分たちの思いを横へ置かなければいけないのです。

C) 神の設計図に沿って教会を建てること 7節～

そして、クリスチャンが召された召しにふさわしく生きて行く中で行なわなければいけない、大切な一致を保つために必要なことは、「神の設計図に沿って教会を建てること」です。

私たちがキリストに召された者として、召しにふさわしい歩みをしたいと願うのは当然です。きっと皆さん一人ひとりそのように思っておられることでしょう。もし、皆さんが本当にそう思っておられるのなら、皆さんは教会を神の設計図に沿って建てなければいけないのです。なぜなら、神の設計図に沿って教会を建てなければそこには分裂が起こるからです。一致が保てないのです。なぜなら、神はかしらであるキリストの命令は、みことばを通して私たちからだに伝えられるからです。私たちはそれをどのようにして理解するのでしょうか？神はそのために賜物を持った者を教会に与えられたのです。彼らが見ことばを伝えることによって、人々はそれを深く理解し、それを自分の生涯に適用し、成長し、奉仕の働きをし、自分の賜物を用いて教会を建て上げて行くようになるのです。もし、私たちがそのように、個人としても、教会としても成長を遂げることがなければ、私たちは神に喜ばれる教会を建てることなどできないのです。そして、これらすべては愛のうちになされなければいけないとパウロは言います。

◎ この教会の計画の中であって、私たちはどこにいますか？

神が立ててくださった教会の設計図、完全に完成した姿を100だとするならば、いったい、私たちは今幾つ位でしょう。私たちはそのことをよく考えなければいけません。この教会はどれ位成熟しているのでしょうか？この教会の中にいるクリスチャンひとり一人はどれ位成熟しているのでしょうか？

◎ 講壇から神のことばが語られているか？

皆さん、この講壇は、正しく誠実に神が語っているみことばを宣べ伝える者によって用いられていますか？それとも、この講壇は人間の考えを皆さんに伝える場として用いられていますか？この講壇は神の真実を伝えるところでなければいけません。もし、この講壇が神の真実を正しく宣べ伝える場所でないとするなら、その講壇の後ろに立つ者は一私も含めて一取り除かれなければいけません。そこに立つべきではないのです。人間の思いがここから語られるべきではないのです。ここから語られるべきことは神のみことばだけです。神が皆さんに対して求めていることが何なのかをここから語られなければいけないのです。ですから、語られていることが神のことばであるかどうかを、皆さんどうぞ吟味してください。

◎ お互いの成長のために熱心に仕えているか？

もし、ここから語られていることばが神のことばであるとするなら、皆さんはそのことばを聞いて、心熱く燃やされて、私は自分の賜物を用いて一人ひとりの成長のために熱心に仕えて行こうという思いに燃え立っていますか？それとも、語られたことは語られたこととして横に置いて、自分中心の生活を送ろうとしていますか？語られた真理を無視して、自分の願うままに生きようとしませんか？皆さんは自分の賜物を用いて互いに仕え合い、他の人の徳を高めようとしていますか？それとも、それを嫌だと言って拒みますか？もし、拒んでいるとするなら、それは皆さんが自分のことにしか関心がないからですか？他の人なんてどうでもいい、自分だけ良ければと自分の利益だけを考えて、しんどい思いをするのは嫌だ、辛い思いをするのは嫌だ、時間を割くのは嫌だ、犠牲を払うのは嫌だと、だから、皆さんは仕えていないのですか？それとも、他の人が自分に嫌なことをしたから、嫌なことを言ったから、意見が

合わないから、気が合わないから、私はあの人たちに仕えたくはないと言っているのですか？それが原因ですか？だれからも評価を得ないから、感謝してもらえないから、私はもう仕えることに疲れたなどと言っていますか？自分の目的が達成されないから、自分の意見が通らないから仕えたくないのですか？いや、ひょっとしたら、もっとひどいことに、かしらであるキリストにつながっていないからではありませんか？ひょっとしたら、救われていないから皆さんは働きたいという願いを持っていないのかもしれない。その可能性だってあるのです。

でも、もし皆さんが語られるみことばに対して、熱い思いを持って、確かに私は神によって救われているゆえに仕えて行きたい、御霊の賜物を用いて生きて行きたいと願っているとするなら、相手の成長だけを願って、皆さんはそれを心からの愛をもって為しておられるはず。もし、そのような教会を建て上げて行くとするならば、この教会に分裂などということばを聞くことはありません。なぜなら、私たちはみな一つではないですか？きれいに切り出されて、周りにいる兄弟姉妹とぴったりと組み合わせられて、深い絆で結びつけられて、お互いのことを愛するがゆえに成長を求めて生きようとするゆえに、そこにはキリストのすばらしいからだを見ることのできるはず。皆さん、この教会はそのような教会ですか？この教会はそのような教会になっていますか？

私たちは完全ではありません。この教会も完全ではありません。けれども、神はこのような計画を持っておられます。完全に向かって進みなさい、この計画に沿って教会を建てなさいと言われます。願わくは、私たちひとり一人がその計画に沿って互いに愛し合い、互いに仕え合い、賜物を用い合って、からだ全体がからだの成長をもたらして行くことができるように、そのような教会になって行きましょう。